# ２０２１年日本動物学会九州支部総会報告

２０２１年日本動物学会九州支部総会は日本動物学会九州支部大会（福岡）がオンラインで開催されるため、メールでの報告事項、審議事項の配信と、Google Form を用いた回答票の提出をおこなった。本総会は通信形式で行われたため、回答票の提出をもって出席したこととみなした。

日時：２０２１年６月１日(火)　～　２０２１年６月８日(火)
定足数：７４名
回答者：３０名
2019 年の九州支部総会で承認された申し合わせ事項「総会の委任状未提者は、総会議決を議長に委任したとみなす」に準じ、回答票未提出者はすべての審議事項について承認したとみなすため、総会は成立した。

**報告事項**
２０２１年６月１日(火)に送付した「2021 年九州支部総会資料」において、以下の報告がなされた。

1. 理事会報告
岡田支部長より、以下の 4 点について報告がなされた。
・2021 年日本動物学会米子大会のオンライン開催について
2021 年日本動物学会米子大会については、新型コロナ感染症の収束が見えず、現地開催を取りやめ、オンラインで開催することとなった。なお、来年以降の年次大会については、2022 年大会が東京（早稲田大学・日程未定)、2023 年大会が山形（山形大学・日程未定）で予定されている。さらに、2024 年大会は九州支部が担当予定であり、現在のところ長崎での開催を検討している。
・支部代表委員について
2020 年の選挙において、九州支部を含む多くの支部で支部代表委員の割当てがなくなってしまい、全体として支部代表委員が激減している。賞等選考委員会委員の選出母体である支部代表委員の数が減ることは学会にとって由々しき事態であるため、今後どうすべきか、具体的な方策について理事会で検討することとなった。
・フォトコンテストの開催について
学会主催の新たな公益プロフェクトとして、一般市民から寄せられた動物写真や動画を対象としたフォトコンテストが現在企画されている。
・動物学会誌（Zoological Science、Zoological Letters）について
近年、Zoological Science および Zoological Letters の投稿数が減少しており、また、投稿分野の偏りが生じている。Zoological Science では、マクロ分野（生態・行動、分類・系統・進化）の投稿が半数以上を占める一方、ミクロ分野（発生、生理、内分泌）の

投稿が以前より大幅に減少した。以上を踏まえ、支部の皆様には、良質の論文を数多く両誌へご投稿いただくよう謹んでお願いする。

2. 庶務報告等

渡邉庶務幹事より、2020 年 7 月～2021 年 6 月までの事業報告、会員数と正会員動向に関する報告がなされた。つづいて、2021 年 7 月～2022 年 6 月の事業計画案の説明があった。2021 年の動物学談話会については、今後新型コロナウイルスの感染状況およびワクチンの接種状況を見ながら、日程および開催地を検討していく予定である。

3. 決算と予算案について

松尾会計幹事より、2020 年 7 月～2021 年 6 月の決算について報告があった。つづいて、2021 年 7 月～2022 年 6 月の予算案について説明があった。

4. ２０２２年三学会合同大会（佐賀）について

渡邉庶務幹事より、2022 年三学会合同大会は佐賀大学にて 6 月１１日・１２日の日程で開催予定であり、大会委員長は、鈴木章弘氏（九州沖縄植物学会会員）である旨が報告された。

5. ２０２３年三学会合同大会の開催予定地について

渡邉庶務幹事より、2023 年三学会合同大会は熊本県で開催予定であり、熊本県からの了承が得られていることが報告された。

**審議事項**

以下の審議事項において、Google Form を用いて、審議をおこなった。

1）２０２１年度事業計画案について
　２０２１年度事業計画案が全会一致で承認された。

2）２０２１年度予算案について
　２０２１年度予算案が全会一致で承認された。

意見： 支部の学会員の減少および Web での大会が標準化される傾向が高いことから、九州支部の大会を年 1 回にまとめてしまった方がよいのではないか（全国大会 1 回、支部大会 1 回は Web で行う）。
回答：近年の本支部の会員数減少を踏まえると、大変重要なコメントだと思います。支部大会の開催形式に関しては、いただいたコメントなどを参考としつつ、九州沖縄植物学会および生態学会九州地区とも協議しながら検討して参ります。（岡田支部長）

意見：また、支部合宿ができる日がくることを楽しみにしています。
回答：まったく同感です。（岡田支部長）

意見：早く、学会が対面式で通常開催されることを祈っています。
回答：対面ならではの良さがこの度のコロナ禍で改めて認識できました。しかし一方で、オンラインの利便性も学びました。両者のメリットをうまく活かした学術活動のあり方を模索していく所存です。（岡田支部長）

（文責：庶務・渡邉　2021 年 6 月 10 日）